

一九九〇年以來の円安水準に対するコメント

神戸商工会議所

会頭 川崎 博也

三十四年前と経済・金融環境が異なるため安値更新そのものに捉われるべきでないが、歴史的な円安が続く中、さらにもう一段の下落傾向は、行き過ぎた感がある。

大手企業を中心とした輸出型産業やインバウンド関連の産業において業績拡大の追い風になるものの、原材料や資源の多くを輸入に頼る中、内需型産業、とりわけ経営体力の脆弱な中小企業にとってはコスト増加の追い打ちをかけられることになる。

足元では、金融政策や財政政策がようやく正常化に向けて動きつつあり、適度な物価上昇と持続的な賃上げによる好循環を生み出していけるか否かの正念場を迎えている。

この動きを本格化させていくためにも、政府及び日銀には、地域経済の動向を注視しつつ、急激な為替変動が生じないよう、適切かつ機動的な政策運営を求めたい。

令和六年四月十一日